

# 大学経営と図書館

2010年11月9日

東京大学附属図書館長

古田元夫

## 変わる大学

- 法人化
- 法人としての自律性の増大
- 大学に求められるようになった経営能力
- 総長の権限拡大
- 外部資金獲得の重要性
- 教育の重要性の増大・・・
- 想像以上に大きな変化の真ただ中に
- 変わるものと変わらぬものを見極め
- 本質的にボトム・アップが大切な組織
- 「虚学」の重要性

## なぜ大学は教育に力を入れるのか？①

- 東京大学の入学試験を突破した、ないし東京大学を卒業したという「ブランド」ではなく、その学生が東京大学で何を身につけたかという「中味」で勝負する時代に
- 「教師の背中を見て育つ学生」・・・後ろを振り返ってみたら誰もいなかった！
- 学志の低下
  - 低い山に登りたがる学生
  - 少子高齢化で低くなる大学生の社会性

## なぜ大学は教育に力を入れるのか？②

- 「学問を究める」ことは、今も昔もたいへん
  - 以前・・・富士登山
  - 現在・・・ヒマラヤ登山
  - 知識の爆発・・・「基礎」と「先端」の開き
  - 断片的な知識はインターネットで自由に入手可能
  - 富士登山とヒマラヤ登山
  - 「知の構造化」と「俯瞰」
- きちんとした登山道の整備    ヘリコプターによる俯瞰  
大学教育の役割

## 法人化と図書館

- 大学経営の必要性
- 学長の権限強化
  - 学長指名制
  - 副学長(理事)兼務制など
- 「特殊な部局」
- 学長直轄部局
- 学長の意向＋部局代表の意思
- 部局代表による館長選出



## 副学長(理事)兼務制の長所・短所

- 副学長兼務制
- 図書館の要求、役員会に迅速に伝達、処理
- 基盤財源の確保には有利
- 「下からの声」の汲み上げ、経営とは距離をおいた「図書館の声」の表出困難
- 図書館業務にあたる時間の制約



## 専任館長制の長所と短所

- 「図書館の声」の代表者としてふるまえる
- 職員との緊密な関係
- 役員会に図書館の要求を伝達するのに苦労する
- 学内の「離れ小島」に陥るおそれあり
- 下手をすると地位低下



## 図書館長のリーダーシップ

- 「トップダウンの経営者」という性格をもたざるをえない学長とはやや性格を異にするリーダーシップ
- 大学経営全体への視野、目配り
- 「図書館の声」(部局図書館の意見、図書系職員の声、図書館利用者の声)の代表





# 教育の重要性の増大と図書館

- 学生が集う場としての図書館の意味・・・ラーニング・commons
- 学際的・分野横断的な領域の拡大・・・従来の学部・学科単位の専門図書館では対応できない、大規模な中央図書館の重要性の増大
- 教育内容のデジタル・コンテンツ化と図書館
- PC or ipad ??



## 流動的な状況でモノを言う専門性

- 図書館も大きな変革期・・・「書架のない図書館」の出現
- しっかりした専門性を身につけること
- データベース、ウェブ情報源などにも通じた主題別のレファレンス専門家
- コンピューター、ネットワーク、資料保存システム構築などの機能専門家
- グローバル化の時代は、多様な個別文化の自己主張が強まる時代

# 図書館の枠に閉じこもってしまうのは損

- 優秀な図書館管理職員・・・大学全体のあり方に通じていることが不可欠
- 大学の中の図書館の地位・・・常に自己主張し他の分野の理解を得てはじめて向上
- 教育コンテンツのメディア化、公文書保存の義務化など・・・図書館の専門性が他の分野でも大切に
- 法人化・・・教員と職員の関係の再定義
- 職員は総長になれないのか？
- 図書館職員は館長になれないのか？
- なれるはず 大学構成員から尊敬される業績

# 浜尾新総長

- 1847年 出生
- 1877年 東京大学創立、法文理三学部総理補として加藤弘之（初代総長）を補佐
- 1893年 帝国大学総長（第3代）
- 1897年 文部大臣
- 1905年 東京帝国大学総長（第8代）

